

第4回「まちづくり懇談会」概要

開催日時：平成21年9月15日（火） 20：30～

開催場所：若宮地区公民館

【参加者】

それでは、市長さんがお見えになりましたので、これから懇談会を始めます。まず、自治会長からお願いします。

【参加者（自治会長）】

こんばんは。今日は市長さんはじめ、市の建設の方及び企画財政課の佐藤さん、お仕事の終わった後、今日はテーマとしてルネスのことで若宮町のお話を聞いて頂きたいということで、この計画は町の懇談会という、企画財政課の佐藤さんに面倒をみて頂きまして、計画が実現したわけですが、ルネスは若宮町の地元であります関係で、是非一度若宮町の町民の皆さんにいろんなご意見・要望を聞いて、また、市長さんのほうから計画等ありましたら説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。それでは、市の方の紹介をお願いします。

【企画財政課職員】

こんばんは。地元若宮ということでご指名を頂きました市役所の企画財政課の佐藤と申します。本日は「まちづくり懇談会」ということで設定させて頂きました。この会も今回で4回目をむかえます。今年の2月に初回を行いまして、子育てのサークルや宮沢賢治・保阪嘉内の交流を行っている「アザリア会」等の民間で活動されている団体の方と市長が膝を交えてお話をしようという趣旨で始まったものであります。今回につきましては先程会長さんの方からお話がありましたが、地元のルネスが今話題になっていますので、意見交換と言ったお話を頂きまして設定をさせて頂きました。懇談会は1時間位が目安ということで行っています。時間も遅いので進行にご協力をお願いします。

それでは、本日は企画財政課の職員ということで、私のほうから紹介させていただきます。会長さんの隣が企画財政課の課長の水川です。

【企画財政課長】

水川です。宜しくお願いします。

【企画財政課職員】

隣が課長補佐の藤巻です。

【企画財政課職員】

藤巻です。宜しくお願いします。

【企画財政課職員】

企画財政課、広報担当の保阪です。

【企画財政課職員】

保阪です。宜しくお願いします。

【企画財政課職員】

それでは、早速懇談のほうに入らせていただきたいと思います。最初に市長からお願いします。

【市長】

座ったままでお話し頂きたいと思います。若宮の皆さん方のほうから市役所の職員の佐藤君を通じて、「まちづくり懇談会」を開催して欲しいということで、若宮の方は「お神楽」の懇談会を7月にもさせて頂いて、後継者を何とか育てていきたいという話を頂きました。引き続き若宮の地内に、保坂会長さんからお話がありましたように地元のルネスの行方についてということで、どういうふうに進捗していくか聞きたい、お話をしたいという要望がありましたので、今回開催させて頂いたわけです。ここには地元の議員さんの西野さんがいらっしゃいますが、西野君の方からも色々な要望を頂いております。南下条から若宮の水路の問題についても何とか実現していこうと進めているところでございます。他にも色々若宮地域の要望事項等も耳にしています。是非頑張っていきたいと思います。いよいよルネスの問題に入りますけれど、ルネスの問題につきましては、「韮崎駅前施設利活用検討委員会」というのが6月1日に設立され、その後、5回程会議を開いていただきまして、7日に答申が私の手元にきたところでありまして、今日の段階において皆さん方に具体的に「こういうふうになる、ああいうふうになる」ということはまだはっきり言えません。ただ、検討委員会のほうでは、こういう要望がありましたというお話は出来ます。これからマスタープランを作りまして、議員さん方にそのプランをご披露申し上げまして、議会の方である程度了解を得た段階で皆様方にもお示ししていきたいと、スケジュールとしては考えています。皆様のほうからも色々要望等あると思いますが、現実を考えますと、市の財政も非常に厳しい中でございます。20年度の決算が出て、今議会でもご承認いただく訳ですが、法人市民税が18億も減るといふ市の税収が厳しい財政の中で、ルネスに掛かる費用につきましては、国からくる交付金等を入れても市の負担金をある程度考えていかなければなりませんので、どの程度整備していくかをこれから企画財政や市役所との色々な部署の色々な議論の中で組み立っていきたいというふうに思っています。いずれに

しましても、今日は若宮の方とざっくばらんの中で、お話を聞いていきたいと思いで、宜しくお願ひします。

【企画財政課職員】

ありがとうございます。それでは、早速懇談の方に入らせて頂きます。

【参加者（自治会長）】

せっかくですから、地元ルネスがあるので、遠慮なくお話しただけだと思います。

【参加者】

ルネスの問題もありますが、ライフガーデンにらさきがでて、若宮町には葦崎高校があったり、町自体建物に囲まれていて閉塞感があり開放感がないといった部分もあるんですね。ライフガーデンにらさきの所にも通路が欲しいという要望も出したが、なかなかうまくいかない部分もあるし、私の希望としては、さっぱりしていきたいなという気持ちはあります。

【市長】

今の話はちょっと置いておいて、きっかけとして、検討委員会でどういう要望が出てきたかをまずお話を頂きます。検討委員会にどのようなことを諮問したかと言いますと、ルネスの駐車場も入れた建物を市が購入した方が良いかどうか。2番目として、現在ある建物をつぶさないで再利用するかどうか、3番目として、もし再利用するとしたら建物をどういうふう利用していくのか、この3つについて諮問をしました。1番目のルネスの土地・建物をどうしたら良いかということについては、検討委員会では市が取得した方が良い、という諮問を頂きました。2番目については、今の建物を改修して再利用することが良いであろうと。だったらその施設の利用の仕方が良いのかということになりますと、駅前という立地条件もありますし、文化的な活動や生涯学習活動に取り組めるような市民が気楽に集える場所であってほしい。その中でもう少し細かく話しますと、コミュニティーの拠点として、芸術活動の発表の場としてのギャラリースペースや音楽活動の練習の場としてのスタジオスペース、行政サービスが受けられるようなサービススペース、子どもから高齢者への世代間の交流が図れるようなホールスペース、あるいはNPO等の市民の自主的な活動が自由に使えるフリースペース、というコミュニティーの拠点として欲しい、また、生涯学習の拠点としては一番要望が多い図書館のスペース、あるいは講座とか集会が出来るスペース、郷土の偉人たちを学ぶスペース、中央公民館や葦崎本町内の公民館的なスペース、これが生涯学習の拠点としてのスペースです。それから乳幼児・児童育成の拠点の場としても使って欲しい等の要望もきています。これは実現性が難しいかもしれませんが、まちづくりの中において立地条件を生かした、人の回遊創出の拠点としての建物

にして欲しいというふうな検討委員会からの答申が出てきています。ルネスは地下から3階と4層になっていますが、バックヤードも入れて全体で5千坪のスペースです。全部をうまく利用出来れば良いのですが、それには改修費や普段の維持管理費の問題もあります。改修費用は一時的な問題ですが、維持管理といったそういった問題も考えて、どの程度まで利用したら良いかは、今から考えていくところであり。若宮の方々からもご意見がありましたらと思います。一応、答申の内容につきましてお話させて頂きました。

【参加者（自治会長）】

いつ頃までに決めないとならないのですか。

【企画財政課長】

お店が閉まったのは3月末ということですが、それから土地・建物の利活用について検討していますが、市民の声を聞くということでアンケートや検討委員会の方たちの意見を聞いたりして、先程のような提言を受けたわけですが、今後のことにつきましては提言を元にルネスを買うことも含めてですが、どのように活用していくかを考えていくことになります。いずれにしても建物をいつまでもあのままで放っておけないので、先程、市長が言ったように提言を受けて、この後建物をどのように使うかといったマスタープランを立てて、早急に策定をして出来るだけ早い時期に議会で説明させて頂いて市民の皆さんに公表していくということですので、そういうスケジュールでいくと財源の問題もありますので、いつってことはなかなか言えませんが、建物が閉まって半年経っているのでこれからその活用方法について出来るだけ早くしたいと思っています。

【参加者（自治会長）】

建物は空き家にしておくと傷んでいきます。うまく利用しているとそれだけ長持ちします。今日は後ろのほうに小泉さんがいらっしゃるので、何か意見ありましたらお願いします。

【参加者】

ルネスの建物を検討委員会のほうでは使用されるということがはっきり決められたのですよね。私の希望としては、あの建物を建てた時には多分ヨーカ堂さんの意見がかなり取り入れられてる建物でして、それを公共のものに使うといってもかなり建物自体に無理があるのではないかと思います。それでしたら、蕪崎市の財源がどの位あるか分かりませんが、一度更地にして民間の力も借りながら、少しでも蕪崎市にお金が入るような形に建て替えた方が良いと思います。現にあのまま使用するので決められたのならば仕方ありませんが。

【市長】

どちらが良いかは私にも分かりません。しかし、ルネスを更地になって市が買った時に、図書館だけ建てることにしても、駅前の土地を利用するには図書館だけってわけにはいかないと思います。やはり図書館に付随して市民プラザ的な建物になると思うのです。それを新たに建てるとなると莫大なお金がかかると思います。将来的にはどちらが良いかは分かりませんが、図書館は早く造ってほしい要望があるけども、更地にして図書館を兼ねたものを造った時には何十億とかかりますか分かりませんが、いつ建つかどうか。確かに図書館寄金がありますが、それだけでは間に合いませんので、何年後にできるか断言できません。あのまま更地にして、それまで駐車場にしておくか、それでも良いのであればそれでも良いのですが、あれだけの建物があるから、確かに25年は経っているから耐用年数は後20年か25年は使えるかもしれませんが、その20年、25年の間でも良いからルネスを再利用して市民プラザのようなものや検討委員会で出されたようなものを、それだと改装費と維持管理費だけで。確かに、ルネスは商業用施設なので行政としては使いにくいところは確かにあります。どちらかがいいかは私にも結論出せませんが、市民感情として色々アンケートをとったりすると、潰すのはもったいないという市民の意見が多かったです。

【参加者】

せっかく企画課長が来ていますから、そこをかうとなれば、そういう案はなかったですか。駅前でこういうことをしたいといった。あそこを購入するとはっきり決まったのですか。

【企画財政課長】

いいえ。それは先程の検討委員会の方から。

【参加者】

だから、それもおかしいのですよ。何かをしようとして「この土地をほしい」と、何かそういう問題が企画の方ではなかったのですか。

【市長】

あれは、その会社が「市で買ってほしい」という要望が出てきて、それから始まった話。

【参加者】

そうすると、市長が言う市の財政が非常に厳しいと、その中でも韮崎市が教育都市にするのか商業都市にしていくのか、そこらへんのしっかりしたビジョンがあって、せっかく駅前だから「こういう形にしたいよ」というのがなかったのですか。台本がなかったら市

民に聞いたって分かりません。

【企画財政課長】

それは市長が言ったように、ルネスの方から商業施設として維持していけないということから始まったことで、4月以降その土地の活用について、市の中でもどのように使ったら良いのか検討しますし、それらと平行して市民の皆さんに土地を取得することから始まって、どのように活用していったら良いかアンケートとって、平行してやっていました。ビジョンというのは、そういう申し出があったから始めたことですから。初めからあったわけではありません。

【参加者】

でもね、一般の方に「さあ」と問いかけても、そんなこと分かりませんよ。そのために企画があるのだから。この町をこうしたいから駅前土地を購入するよと、それに対して案を出して下さいって言うならいいのだけれど、既存の部分をどうするとか、そんな問いかけられたって、逆に何がきて何が良いのか全然分かりません。

【企画財政課長】

それについては、検討委員会の方から、市民のアンケートを元にした提言書を頂いています。それを元に市の方では「ルネスをこのように活用したいのですがどうですか？」というマスタープランを作ります。その段階で又市民の皆さんに「こういうことでマスタープランを作りましたが、この案に対してご意見を伺います」って聞きます。そういう事で皆さんに投げかけする時間は取ります。

【市長】

これは市からこっちの保坂さんに「まちづくり懇談会」を開催してくれて言ったのではありません。若宮の地区からショッピングセンターが動いているね、だったらその話を今日はしてくれませんか、ということに来ているのだから。

【参加者】

市はこうしたいのだが、どうですかという。

【市長】

それはそうですが、たまたま他に市として「図書館検討委員」があったのですね。図書館の問題については市民の皆さんの要望が昔からあって、だとしたらルネスの方から「買って下さい」という要望がきた段階において、これだったら駅前であるし、多くの学校が近い所にあるし、図書館のスペースとしては大変良い土地ではないかということが一つく

つついています。

【企画財政課長】

もともと、市には10年間を定めた長期計画があります。その中に図書館があったり、子育ての関係とか色々入っていますが、たまたま今回駅前のいい場所に申し出があったということで、色々長期計画で盛ってあるものについてここでどうだってことも考えますし、それに市民の方々が要望を付け加えたりして「ここをなんとか出来ないか」という、そういうことで今からマスタープランを作っていくことになります。

【参加者】

そんなことを市民に問いかけても、難しくて分かりませんよ。図書館を作りたいってことは商業ゾーンにしないって、学習都市にしたいってテーマなら、皆に問いかければ構想が出てくるが、企画の方でしっかりしたビジョンが出ないと。

【企画財政課長】

だからそれは、先程から言っているように、今月末か来月末を目指してマスタープランを作るので、それを皆さんにホームページとかでお示しをして、1ヶ月位のある程度の期間をとって、皆さんに「こういうものを考えていますけれど、意見はございませんか」と言う投げかけをします。

【参加者】

今の話を聞くと、方向としては商業都市にしないで、学習都市にもっていききたいというテーマですね。

【市長】

市が購入して商業施設にするのはなかなか難しい話です。

【参加者】

そうすると、図書館だけであれだけのスペースが。

【企画財政課長】

いいえ、スペースが広すぎますので、図書館だけにする予定はありません。そこに何が皆さんのニーズの応えられるような施設が望ましいかということこれから考えて、又、皆さんに投げかけをして最終的には集約していくという、そういう手続きをとる予定です。

【参加者（自治会長）】

今日のテーマは「まちづくり懇談会」で若宮町の町民の方たちに、市が図書館や色々なものができましたが、何でもいいですから話し合いの場を、こういう希望があったらということ。「まちづくり懇談会」というのは一つの基本のテーマなので、プランなどは次の問題で、役所の方でも地元の要望とか意見は「こういうもの」だと、取り入れて頂いて、一度は必要だと。役所の方から「こういうふうにして下さい」や「こういうプランを出しますよ」もいいが、やはり地元の人の方考え方や意見も色々大勢ありますから、一度は会を持ちたい。アンケートや広報とかで情報がいろいろ流れていますが、実際の地元の生の声を聞く必要があるということで企画を持ったわけです。

【参加者】

意味は分かりますが、開発なんて一般の市民は分かりませんよ。企画課長たちが色々な情報やデータを持ってきて、葦崎にはこれが良いと、学習都市にすると、そういう方向で持っていきたいと、何かを投げかけないと、根本的に、では皆に投げかけたって「こんな大きいもの何するの」って。潰すにはいくらかかるの、こんなこと要ったら全く分かりません。何か投げかけてくれないと対応ができません。漠然と委員会に入るが「分かりません」と、だったらまとまらない。先程、西野君の言った若宮全体を考えるのだったら、ちょっと閉鎖的になっている元商店街をどうするとか、住宅はこうだったというテーマをかけるのだったら話はできますが、潰してどうだこうだなんてことはここで議論することではないと思う。葦崎の全体をみて「こういう企画でもっていきたいよ」と、それに対して「住民の皆さん力を貸してくれ」って言うのであれば話を通るが、潰すにもお金がかかる、それでも市は購入するのですか。買うって議会で通ったのですか。

【参加者】

そこが聞きたいですね。そこらへんもはっきりしてないから、買うものか買わないものか。

【市長】

議会のほうにも検討委員会というのがあって、そちらのほうは議会の方も市が購入するべきであるという話は今きております。

【参加者】

議会で購入するってあれば、何で購入するっていうことは企画で出ますよね。図書館とかという案を投げかけてくれば。

【市長】

それはまだマスタープランが出てないのだから、その答申を受けた中にギャラリースペース、スタジオスペース、サービススペース、フリースペース、図書館スペース、講座集会スペースとか盛りだくさんあるわけです。これをマスタープランの中でどのように配置して、これらが全部入るかどうかもまだ検討して、今度は議会に「こういう配置ではどうですか」って提案して、議会がOKすれば市民の方々に「こういうふうですがどうですか」って言う順番になっていくということです。

【参加者（自治会長）】

だから今日はマスタープランは市長さんが話しましたが、マスタープランの中でもこれから色々案があると思いますが、若宮町の皆様の意見もその中で色々あったら「こういうものを取り入れてほしい」等、そういうことは可能であればという話ですから。

【参加者】

具体的な話で藤原先生がいるから、若宮町には良い神社があります。駅からこういう形で2、3百メートルで神社まで行ける、立地条件は最高なんです。神社通りでも作って、あの建物を活用して日本全国からの神道と呼ばば、この町はもっと良くなると思います。若宮町の商店街ももうダメでしょう、そうすると、ここの入れ替えをして全部神社街にでもしたらどうでしょうか。

【参加者】

ここ数年、駅前が閉鎖されて質素になって活気がないって訳です。8時以降は死んだような町になっているような気がします。だからもう少し前みたいに町の明かりというか活気があるまちづくりの一環の、そういう施設なんかもあって、もう少し夜遅くまで、一番良い駅前だから、そういうふうな格好も必要ではないかと思います。駅を降りたらもう少しにぎやかで明るい感じのものがあったらいいのではという意見を受け止めていただければと思います。

【参加者】

ライフガーデンが向こうを向いているからいけない。

【企画財政課長】

当然、先ほどの提言とかこれからのマスタープランの中にも駅前の最高の立地条件なので、早くあそこに明かりが灯るように考えないといけないのはあります。先ほどの提言の中にもあったように皆さん交流する場所ってことで、時間帯のこともある程度夜まで使えるような施設も良いのかなってことも今から考えて。とりあえず公共施設としても5時半

で終るのではなくて。

【参加者】

そうですね。飲食街やある程度の。下が図書館で上が飲食街でも良いではないかと思えます。

【企画財政課長】

配置については今からですが、市が購入するにしても早く明かりが灯るような事を考えていかななくてはならない。それにしても手続きを踏んでいかないとならないのが公共事業なので。

【参加者】

うまくいかないこともあると思いますが、6時、7時で明かりが消えてしまうという考えではなくて、もう少し長く明かりが灯っているような考えの建物の利用も考えてもらったら良いと思います。

【企画財政課長】

そういう立地条件も含めて市で取得して活用すべきというのが今回の提言でもありました。

【参加者（自治会長）】

基本的に立地条件は商業地域なのです。商業地域は色々仕事していても結構融通が利くんです、飲食街でも。だから折角商業地域になっている訳ですからその辺もうまく考慮していただくことも必要だと思います。商業地域の利点を生かすと。

【参加者】

お金の問題ですが、やはり何から何まで市で負担するのは、誰が考えても大変なことだと思いますので、民間の資金をうまく導入出来るようなこととか夢のある施設を作れば、例えば市民債と言ったように、蕪崎の市民が一ロ一万円でも良いから市民債を買ってやろうっていうふうな雰囲気が出るような施設を造って頂ければありがたいと思います。そうすれば市民債を買った人は非常に愛着があって何かにつけ利用するようになるのではないかと思います。

【市長】

市民債っていうのは一つの案ですね。やはり、いずれ市が、もちろん国の交付金や補助金を使用し、なるべく市の負担を少なくなるようにしていきますが、一般会計で出すには

とても出来ないような大きなお金がかかるので起債を起こすようになってくると思う。その中にある程度、市民債というものが可能であれば、そういった考え方は市民の方々に賛同して頂いて、その中に1億でも2億でも市民債で資金が捻出できれば理想の話だと思います。

【参加者】

菫崎市が買うか買わないかっていうのは今後決定すると理解して宜しいですか。

【市長】

そうです。

【参加者】

その決定をするのはいつになるかは決まってないのですか。その決定を下すのに、どのような資料を元に決定をくださるのですか、ということをもまず聞かないと。

【市長】

いずれにしても買うってことになれば議会を通さないとなりませんから、今の手段でいくと12月の議会ということにおそらくなると思います。それは、検討委員会とか市議会の方でも特別委員会でも、駅前のルネスの跡地をどのようにしていったらいいのかってことを市の方としては市民の代表の検討委員会で検討していただいて、一応結論は購入した方が良さだろうと、また、議会の特別委員会においても、市が買って市民が利用出来る施設にすることが良さだろうという方向が二つとも出てきていけば、それは市としても参考意見として非常に比重は大きくなってくと、今から決断を下す一つの資料としては大変な重みのあるご意見だと市としては考えています。

【参加者】

もし購入しなかったらどうなりますか。

【市長】

購入しないとすると、組合の方々がどのように考えるか分かりませんが。

【参加者】

若宮町とすればやはり買ってもらった方が良くと思います。例えば、購入しないことになると、あそこはゴーストタウンになって、今更あそこを買う人なんていない訳だからと思うので、お化け屋敷として全国に紹介されると思います。だから若宮町とすると、市の方が税金を払って買ってくれるので、むしろお願いしてそれ以降の利用をどうするかを検

討してもらった方がいいのではないのでしょうか。市で買わないってことになったら多分、ルネスはお金がないから取り壊しもされず、ゴーストタウンになって若宮町そのものがおかしくなってしまう。

【参加者】

後はヨーカ堂さんの話になってしまう。

【参加者】

ヨーカ堂さんはもう関係ないよ。

【参加者】

組合だけど、組合だって今更、事業なんて出来る訳じゃないので、基本的にはやはり市で買ってもらうしかない。そうしないと結局、跡地を有効に利用するもしないもまずはそこから始まるのではないかと思います。

【参加者】

ただ、利益が起きれば市の財政で、維持管理も出てきますが、完全に図書館だけで作られたら企画でも年間どの位掛かりますか、5千坪の維持管理費は。

【市長】

公共の施設とは市民サービスの場でもあるので、例えばの話として今の市民会館の機能を全部持ってきて市民会館はなくすから、今までの市民会館の維持管理費はこちらに移るわけだから、それにどの位上回るかってことになる訳です。面積が大きくなったりすれば維持管理は大きくなりますが、そういう色々なことを考えて結論を出していくということです。

【参加者】

今、市長さんの方から言われました、例えばギャラリーやスタジオを作って、行政サービス、多目的ホール、フリースペースを作る、これを今のルネスの建物で例えばいくらかければ何年位使用出来るとか、これを造った場合にはいくらかかる、それが蕪崎市の財政においてどういう部分を占めてくるのか、っていうふうな計算は今からするのですか。

【市長】

今からです。

【参加者】

そのへんの無理があれば出来ないと思いますね。

【市長】

そんなに豪華にはならないと思います。

【参加者】

60億の中で税収が18億減収だという中でそれを買って、市民にどれだけの負担がくるのか。また、子育てという民主党の中で、あそこが駅前だから保育所を造り甲府に勤める方などが子どもを預けられる施設を造るには国からどの位の費用が引き出せるのか、そういうことを、また、今聞いていると市の中だけのことだけを考えていますけど、一等地と言っても、よそからお客を連れてきてこれだけ利益が上がるんだと、そういうことだからやりたいということが今示されていない。何かそうやって一等地を生かす、よそからお客を連れてきて韮崎市にお金を落とす、そういうことがなかったら商店街がダメとか言っても、やはりそういうことをやっていかないと栄えてこない。そういうことは現状考えていないみたいだけれど、何かそう一等地を生かす方法を。

【市長】

市役所は儲けるっていうことでなくて、市民にどういうサービスをしていくかってことや維持管理も少なくしたり、そのためにはルネスの跡地を利用していけるということを考えなければなりません、しかも土地的には。ただ商業施設と言いますが、何でルネスは終ってしまったのかも考えなければなりません。新たに商業施設を持ってきても。

【参加者】

いいえ、あれは商業施設ではなく、何かして、県外からお客が来るとかして、そういうことを考えていかないと、一等地の意味がないです。

【市長】

一部はありますが、それは維持管理費の足しにもならないような微々たるわずかなものです。それは確かに皆さんも知っているように「保阪嘉内・宮沢賢治」の2億8千万という73通の手紙等を展示する一つの案もありますが、入場料を取るか取らないかはまだ分かりませんが、そういった韮崎の文化を文化のスペースとして展示するスペースもあったら良いかなということもこの中にはありますが、「宮沢賢治」の手紙を見たいって方は全国には沢山います。アザリア会には問い合わせがありますが、人が並ぶ程来るかどうかは、ないと思います。ただ、韮崎市外から人が来るという一つの拠点としては考えられます。しかし、まわりの商店街が賑わうほどの集客は難しいのですから市としては市民のサービ

スにどの程度のサービスをしていくか、とんでもないサービスをして維持管理費や会場費があるものについては二の足を踏んだりすることにはなると思います。

【参加者】

買う、買わない、建物を使う、使わないは色々な議論がありますが、根本的に考えてもらいたいのが導線なのです。人の動きがどのように動いていくか、建物を再利用した場合、潰して新しく造った場合、若宮町や本町や学生や県外の人たちがどう動く、という導線がありますよね。それをもう少し考えていただいて、そちらをメインにして考えてもらって、何を造るから人の流れがあるだろうと、そういった面も考えながら色んな施設を入れていく、図書館でも構わないし、子育て支援センターでも構わないし、色んなものがあると思いますが、人の導線ですね。簡単に言いますと、この前、市で駅前に階段を造りましたが、あれも一つの導線です。あの階段がなければ皆さん大回りをしたりとか、大変な思いをしますが、あの階段ができたことによって人の流れ、が出てきているので、導線を再度考え直して頂いて検討して頂きたいと思います。

【参加者】

議会ではどこまで話が出ていますか。

【参加者】

議会でも買うとか買わないとか、建物を再利用する、しないとか、アンケートに対して内容はないだとか色々な話をやってきています。特別委員会も8回位やっていますが、似たような施設も見学に行っていますが、例えば建物を再利用した場合の施設がやはり多いです。自分の客観的な見方ですと広すぎて持て余している感じは受けました。5千坪というと市の庁舎の別館と文化ホールを足した分くらいあるのですよ。客観的に見て、困った時に会議室をたくさん作ったりとか、コミュニティーホールという名前のホールとか。要するに有効スペースとして使っているかというところとそうでないような気もします。あれだけの大きい床面積になると、建物自体もうまく工夫して造っていかないと無駄なスペースへ維持管理費をかけてしまうと思いました。

【参加者】

改修というのは最終的には新築するくらいかかってしまう。企画の方から葺崎のためにこうだよってあれば、私は潰して国の補助金を貰ったりして新築すれば良いと思います。

【参加者】

今、西野さんがおっしゃったように、スペースを持て余していることが現実だと思えます。持て余しているというのはマイナスにしかならないと思います。例えば半分潰して利

用するとか、非常に維持管理費は、どこの施設でもそうですが、人件費はかかるし、例えば5千坪を2千5百坪にしたり、といった案はないのですか。

【企画財政課長】

広さということで言いますと、広いという実感ですが、逆にいいますと後発ですから、そういうものを参考にして無駄がないようにしていかなければならないということも一つの考え方でもあります。半分にしてしまうのも現実問題難しいです。初めから100%埋める必要もないという考え方もあります。あるいはあのスペースから利益を生むようなことも考えてもいいし、後発であるがゆえにできることもあります。楽観はしませんが、皆さんに喜ばれるような様な施設にしたいと思います。

【参加者】

市民の税金を上げないとならないとか。

【企画財政課長】

先ほど、西野さんがおっしゃったように人の導線を考えますと、提言の中でもあれを活用して既存の商店街にも人の流れを考えて欲しいという意見もありましたので、あれを単体ではなくて核として人が流れるような施設にして下さい、という意見もあります。

【市長】

あの施設をどういうふうにしていくかは大変な問題で、確かに広がりがあるかどうかは分かりませんが、市民の要望の中に図書館とか子育てセンターがあります。お母さん方が働きに出ていて、保育園が終ってから見てくれる場所とかの要望がすごくあるのですね。そういうのがまわりのほうに経済的波及効果があるか、と言ったら私にはよく分かりませんが。市民サービスの施設ということで地域のまわりに経済的波及効果が。役所としては市民サービスの部署の方が多くなる訳ですから。ただ、一つの考え方として余ったスペースを客を呼ぶようなテナントを入れることは考えとしてありますが、あまりテナントが多いと国の補助金が減らされていきます。公共で使うスペースが多ければ多いほど、そのスペース分の交付金が多くなります。改修して中に明かりを採ることはしますが、後はパーテーションで区切って安く仕上げるということです。

【参加者】

それでは、予定の時間になりましたので終了させていただきます。大変お忙しい中ありがとうございました。